


所属部門	地域・文化	専門分野 フランス哲学, 現象学
研究分野	哲学・倫理学	
	佐藤 勇一 准教授 一般科目教室(人文社会科学系) 哲学研究室 y-sato@fukui-nct.ac.jp	キーワード メルロ＝ポンティ, 間文化性, 視覚論, 身体論
		所属学協会・研究会 日本現象学会, 日仏哲学会, 関西哲学会, 関西倫理学会, メルロ＝ポンティ・サークル, 日本ミシェル・アンリ哲学会

研究テーマ

【研究テーマ1】

メルロ＝ポンティの哲学を中心に、哲学・現代思想について研究しています。これまでに、メルロ＝ポンティが哲学以外の領域(心理学, キリスト教, 芸術, 人類学など)との対話を通じて、古典的な哲学(とくに17世紀)が問題にした「存在」「自然」「人間」の関係を、古典的な仕方とは別の仕方では捉え直していることを明らかにしてきました。今後は晩年の未公刊草稿も視野に入れることによって、メルロ＝ポンティ研究の深化を目指すとともに、後期思想の応用可能性について探り、メルロ＝ポンティ研究の拡張も目指します。

【研究テーマ2】

間文化現象学という、文化と文化の間で生起する間文化的な諸現象を現象学的に解明するプロジェクトに9年参加してきました。また、2018年よりp4c(子どもの哲学)という近年世界各地の国や地域で実践されている教育方法に取り組み、国内やハワイの教育実践から学び始めました。今後は、間文化現象学の「芸術」に関する共同研究に関わるとともに、これとp4c、および、哲学研究(とくにメルロ＝ポンティ研究)に跨る新たな研究領域を創出していきます。

【研究テーマ3】

これまでに、メルロ＝ポンティの芸術論を取り上げたり、ケプラーやデカルトの光学に関するメルロ＝ポンティやジェイの視覚論を、間文化現象学的に取り上げたりするなど、「視覚」を主要な研究テーマのひとつとしてきました。ジェイの視覚に関する著作『うつむく眼』の翻訳もしました。今後は、フランス哲学における視覚に関する考察を現象学のみ限定せずに取り上げたりすることによって、「視覚」や「技術」に対して思想的にアプローチする研究に取り組んでいきたいと考えています。

産官学連携や地域貢献の実績と提案

2014年、15年に「公開講座 ラポール学園京都労働学校(公益社団法人京都勤労者学園)セミナー『哲学の名著を読む』」に講師として参加しました。また、2016年以降、「公開講座 中学生のための社会講座——高専の入試問題で学ぼう——」に講師として参加しました。JOINTフォーラム2016では、武生商工会議所にて「ポスター発表 未公刊草稿の観点から行うメルロ＝ポンティ哲学研究」を行い、2017年には福井高専地域連携アカデミア総会に特別講演講師として参加しました。